

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0870600301 | | |
| 法人名 | 株式会社 稲善 | | |
| 事業所名 | いねの里 やすらぎの家 | | |
| 所在地 | 茨城県筑西市下中山381-1 | | |
| 自己評価作成日 | 2021年10月2日 | 評価結果市町村受理日 | 2022年2月4日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0870600301-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 認知症ケア研究所 |
| 所在地 | 茨城県水戸市酒門町4637-2 |
| 訪問調査日 | 2021年11月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いねの里は開所して19年になり筑西市のほぼ中央に位置し自然がいっぱいの施設です。建物の周りには様々な木々や花々が咲き誇り癒されます。隣の保育園からは、大和太鼓の演奏や子供達の声が聞こえ元気をもらえます。敷地内には大きな畑があり農業体験にも力をいれております。また「毎年」梅狩り”に行ったり”ピアノの演奏会”などがあり、思い思いのひと時を過ごされています。昨年はコロナ禍であっても医師会 各会の先生方より専門的な知見、助言をいただきながら、感染症にもかからず過ごすことが出来ました。ご利用者様が毎日、安全で楽しく安心して過ごしていただけるよう、職員一同日々努力しております。1丁目は筑波山から朝日が輝き、長い廊下を利用して歩行訓練など行えます。畑の野菜がふんだんに採れる事から、献立も豊富でご利用者様はとても喜んでおります。

利用者は隣の保育園から聞こえてくる和太鼓の音や子供たちの声に癒されながら、日々の生活を営んでいる。3つの各ユニットから見える景観は朝日に照らされる筑波山、夕日に映える日光連山とそれぞれ違う。広いフロアを活かして体操・歩行訓練を行い生活リハに取り組んでいる。コロナ禍で外出に制約がある中、梅狩りや保育園の運動会に出かけたり、生活リハの散歩・畑仕事・ヤギや鯉の餌やり等で屋外にて五感の刺激を受けている。今回の評価にあたり各ユニットごとに自己評価を実施し、自身のケアを振り返る貴重な機会だと捉えている。コロナ感染予防対策マニュアルを作成し、ゾーニング・防護服の着脱を学び、キャップ使用や時間を決めての消毒等を実施している。職員は非常口から出入り等、普段から感染対策を心掛けている。職員のきめ細かい支援と利用者の意識から介護度が要支援となり、退所となる利用者がいる。寂しくもあるが職員の励みにもなった。***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 利用者様が安心して過ごしやすい環境作りを、理念に基づき共有し実践につなげている。 | 視界に入りやすい事務所やエレベーター前に理念と目標を掲げている。朝礼時の唱和や会議で確認し、理念を共有して実践につなげている。職員は外出支援が減った分、日々のレクを多くすることで、利用者の笑顔を引き出す安心・安全な生活支援に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 現在、コロナ環境における事態なので活発的な交流は少ないが、3密に留意しながら梅狩りなどをし地域交流している。 | コロナ禍で積極的な地域交流は少ないが、感染対策をしながら、梅狩りや保育園の運動会の和太鼓見学に出かけたり、ミカン狩りのお土産を届けてもらったりと地域交流を継続している。地域住民からの福祉・介護に関する相談にアドバイスをしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在コロナ環境における事態なので、活発ではないが、地域の人々に向けて活かしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナウィルス感染拡大防止の為、文書にて発送し意見を頂いてサービス向上に努めている。 | コロナ禍で利用者状況・運営状況・事業予定・報告等を書面で行い、行政から意見をもらって検討した結果を再度書面で報告している。行政からはコロナ関連の注意連絡等が多い。議事録は掲示板に掲示しているが、家族への報告までは行っていない。 | 運営推進会議の意義を踏まえて、書面報告の前に家族・メンバーに意見を聞き、結果も家族・メンバーに報告することが望ましい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | スタッフが市役所等に報告、連絡、相談をしながら協力関係を築けるよう取り組んでいる。 | 担当課とは連絡を密にとり良好な関係を築いている。子供110番を設置している。地域密着型連絡協議会・ケアマネ会は参加出来る時に参加し、情報交換を行っている。小学生の町探検や中学生の体験学習受け入れは現在は中止となっている。専門学校の実習を受け入れた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を設置し、ユニット会議等でも検討し、転倒 転落等、危険行為がない場合は身体拘束をしないように取り組んでいる。危ない場合は、家族の了承を得ている。 | 身体拘束適正化指針を作成している。委員会を設置して毎月、勉強会を実施し、利用者の安心・安全に向けたケアの提供に努めている。やむを得ず拘束となる場合の書類は整備し、家族と同意書を取り交わして解除に向けた取り組みを記録に残している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 安全衛生委員会を開き、虐待についてどのような行為があたるか等話し合い虐待行為がないよう、防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ご利用者様には連絡をしながら理解をいただいている。また、必要に応じて福祉関係者と話し合いをもち支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には重要事項の説明をし疑問点等も伺いながら理解していただけるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご利用者様やご家族様からの意見や要望など聞く機会を設けている。また、意見箱も設置し、それらを運営に反映させられるよう努めている。 | 意見の言い出しにくい利用者・家族に配慮し、意見箱を設置し、第三者機関名と電話番号を明示しているが、そちらかの意見等は無い。電話連絡時や面会の時に意見を聞くようにしている。面会に関する意見が多く、現在はアクリル板を挟んで玄関で短時間の予約制面会にしているが、今後、WEB面会を開始予定。コロナ禍で面会が制限されているので、対応可能な家族には利用者の様子を動画をメールで送信している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 委員会などで職員の意見や要望など聞く機会を設け、運営に反映させられるよう努めている。 | 利用開始の利用者・新採用職員等、運営に関する情報は事前に受けている。現場の気づき・委員会・ユニット会議・全体会議等で意見や要望を聞く機会を設けている。職員の間関係が重要なので、管理者はストレスや不満解消、出勤日の調整等に尽力している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | スタッフ一丸となって働けるような環境づくりを目指します。また、勤務時間を考慮し職員が向上心をもって働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 委員会等では勉強会を開いたり、茨城県保健福祉部等からくる研修案内などは、個々の能力を把握し該当する職員に機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者の情報をインターネットなどで把握し参考にしながら勉強し、サービスの質を向上させられるよう皆で共有しながら取り組んでいる。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時、ケアプラン作成時に、ご本人様に不安な事や要望を聞き、安心を確保できるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様と連絡を取りながら信頼関係ができるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人様とご家族様がどのようなサービスを必要としているのかを見極め支援できるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人様一人ひとりの状況を把握し、自分でやれる事はやれるように促し、やれない事はサポートしながら支え合う関係を築いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人様と家族様の絆を大切にしながら共に支えていく関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍の為、活発ではないが馴染みの人等、関係が途切れないよう努めている。また、3密に留意しながら状況により他ユニットの方と交流できるよう支援している。 | 電話や手紙で大切な馴染みの人との関係継続に努めている。利用者同士、時には喧嘩しながら支え合う関係が出来ている。他ユニットの利用者との交流が出来ている。月2回、好みの物を購入できるワゴン販売は利用者の楽しみとなっており、バナナ・ヨーグルト・アンパンが好評との事。職員の送迎で馴染みの美容院でパーマ・毛染めをしてもらう利用者がいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 時には口喧嘩をするが、孤立させないように支え合えるような支援に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後も今までの関係を大切にしながら、何かの時には気軽に相談しやすい環境が築けるよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ケアプランに基づき、日々の状態を留意しながら不安 不穏にならないよう、個別に対応している。 | 利用者の様子を注意深く観察し、戸惑いや混乱が生じないように努めている。選択できるような問いかけや、様子や仕草等から意向や希望を把握し対応している。趣味の塗り絵やクロスワード、ナンプレや折り紙、畑仕事や洗濯たたみ等で意欲を高めている。意向の把握等が困難な場合は会議等で検討し、本人本位の支援に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 個々の状況を把握しながら、住みよい暮らしができるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 申し送りや介護記録等で情報を共有しながら、日々の状況把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ユニット会議を開き、モニタリングを活用しながら一人ひとりの暮らしに合ったケアプランを作成している。 | 利用者のニーズとケアのあり方について話し合い、プランを作成している。作成後は家族の同意を得ている。ユニット会議で短期目標に向けた実践内容を確認し、モニタリングから評価に繋げている。業務日誌・申し送りノート・ケース記録に、様子が分かるように残している。昼間は黒ペン、夜勤帯は赤、医療関係は青と色分けして記入がされている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 申し送りノートや個人記録を記入する時は、夜間帯は赤ペン、受診や往診は青ペンを活用し、しっかり書くように伝え情報を共有し活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 外出や外泊等はコロナ禍の為、多くできないが、面会はボードを挟んで短時間でできるよう取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のボランティアさんが草刈りや畑を耕して下さり、安全に野菜作りなど楽しむことが出来る。ご利用者様は新鮮な野菜が食卓に並ぶのを楽しみにされている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 医師の往診やご家族様ご本人様希望のかかりつけ病院で医療が受けられるよう支援している。 | 協力医療機関(3ヶ所)から月2回の往診があり、往診記録とユニットファイルに記録がされ、体調管理に努めている。かかりつけ医受診はその時に応じて職員・家族が対応し、受診後はそれぞれ報告を行い、家族・事業所で共有している。検査報告時は看護師が対応し、家族に連絡して記録に残している。緊急時の対応マニュアルがあり、職員に共有されている。前回の評価を受け、医療関係に関する記録は青色ボールペンで記録し、わかり易くなった。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 発疹や軽いアザやケガでも相談し、適切な受診看護をうけられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の時はご家族様等に連絡し、病院には看護師がサマリーを通して伝え情報交換に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看護師がかかりつけ医とご家族様に連絡し、ご利用者様の体調等理解していただく事に努めている。また契約時や入居の時に説明し、救急時の対応について同意をいただいている。 | 契約時に重度化した場合の事業所の対応方針・看取りに対する考え方や看取りを希望する場合についての指針を説明し、終末期ケアに対する同意書を定めている。段階的に看護師がかかりつけ医と家族に連絡し、話し合いを設け、事業所では24時間の医療関係が取れないことから次の施設・病院に繋げている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 看護師等の指導を受けたりマニュアルを確認しながら、緊急時にも対応できるよう常に心掛けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災訓練や災害時の対応をマニュアルで確認したり、話し合いで把握しながら万が一の時にも対応できるように努めている。 | 消防署指導と自主訓練(業者と連携)を、併設の特養職員・地域住民と一緒に実施し、消火ホースからの消火や布団を担架代わりにした避難方法も体験した。備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。元消防員の職員の存在は非常に大きく、その都度適切なアドバイスが得られるのは心強い。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重しながら、常に介護の質、向上に努めます。 | 利用者に合わせた声掛けを行い、人格や誇りを損ねない対応に努めている。書類関係は事務所内で管理。情報開示に対する同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。面会簿は個票記入になっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりのご利用者様の思いや希望に沿えるよう努め、笑顔で生活できるよう心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご利用者様のペースを大切にしながら、ご本人様の希望に沿って支援できるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | スタッフがご利用者様に合うような服を把握し、要望に沿えるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 介助が必要のご利用者様にはその人のペースで介助をし、食事の片づけや準備が出来る方には手伝ってもらうようにしている。 | 冷凍食品を利用し、ユニットで調理したメニューを栄養士にチェックしてもらいながら提供している。畑で収穫された野菜は新鮮で好評である。マイ食器で美味しく頂いており、移動販売で購入したふりかけやフレークをかけている利用者もいる。配膳・下膳の他、おやつは利用者も一緒に作っている。感染予防として、テーブル数を増やし、間隔を空けたり、壁向きに座る等の工夫をしている。食事制限には味付けや量で対応している。数名ずつに分けて外食支援を行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食生活は一人ひとり違うので、食べる量や栄養バランスを考え支援している。水分に関しては、脱水等にならないよう心掛けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々に歯みがきやうがいをする。また、介助が必要のご利用者様はそれに応じて対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | オムツやパットが必要な人も昼はトイレ誘導しパット交換のみにして、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 自立の利用者には見守り支援、声掛けが必要な利用者には排泄パターン・チェック表・表情・様子から失敗がないように細心の注意を払っている。結果的にパットの使用枚数が少なくなった。便秘予防としてOT・PTが作成したマニュアルをもとに運動をしている。今後はリハビリに取り組む予定。乳酸飲料も取り入れている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 3～4日便秘になっていた場合、看護師に報告相談し、運動や内服薬にて対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの状態を把握しながら介助が必要なご利用者様にもほぼ毎日入浴できるよう努めている。 | 体調を把握しながら利用者の希望に応じた入浴支援を実施している。毎日入浴している利用者がある。拒否がある場合でも最低週3回の入浴に努めている。季節のゆず湯・しょうぶ湯・入浴剤で気分転換を図っている。入浴支援時は食べたいものや欲しい物の要望が出るので、希望に沿うよう支援している。皮膚感染予防対策を実施している。着替えの準備は利用者と相談しながら行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼寝は30分から1時間、夜はしっかり眠れるよう支援している。時には起きている人もいるが無理に眠るのを押し付けないよう対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 何故飲むのかを個人情報にて把握共有し、薬の説明書も読み症状の変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 楽しく過ごせるよう、時には一緒に笑ったり歌ったりして支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍の為、3密に留意しながら戸外(散歩)に出かけるよう努めている。 | コロナ禍の為、以前のような外出支援は行っていないが、梅狩りや保育園の運動会に出かけた。天気・体調が良ければ散歩・鯉の餌やり・野菜の手入れ・収穫等を行い、太陽の日差しを浴びている。小山・つくばで開催された親族の結婚式に参列した利用者がいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 移動販売等により、一人ひとりの希望のものを購入できるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | スタッフが電話をかけ、本人様に代わり、やり取りが出来るよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居心地が良い空間作りに努めており、花を飾る際も季節のものを取り入れ、その季節に合った飾り付け等もしている。 | 玄関アプローチでは利用者が手入れ・水やりをしている季節の草花が訪問者を温かく迎え入れている。柿やゆず、クリスマスリースやサンタ等を飾り、見当識に配慮している。ふる場やトイレは矢印で誘導する工夫がされている。職員のプロフィールやイベントの写真を飾り、話題提供になっている。エレベーター前に仏壇を置き、毎日利用者が水を取り替え、亡くなられた元利用者に手を合わせている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 他利用者様と話したり、一人ひとりになれる空間として テーブルの距離をおいたり工夫をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人様の希望を伺いながら馴染みのものを居室においたり、食器なども使い慣れたものをお持ちいただき快適に過ごせるよう努めている。 | 居室入り口に名前・住所・花を飾り、混乱防止に努めている。椅子・テーブル・整理ダンス・テレビ・座椅子等を置き、自宅にいた時と同じような居室作りに努めている。家族の写真・遺影・手作り人形・折り紙・娘さんの結婚の記念品等を飾り、目覚まし時計・ナンプレやクロスワードの本を置くなど、落ち着ける空間となっている。車いす使用の利用者の動線も確保されていた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 床に足が引っかかるような物を置かない。お風呂の場所やトイレの場所が分かるように見える位置に案内紙を貼ったり声掛けしながら対応をしている。壁のでっぱりでケガをしないように丸めたりして工夫している。 | | |

(別紙4(2))

事業所名 : いねの里 やすらぎの家

目標達成計画

作成年月日 : 2022年2月3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 4 | 運営推進会議の意義を踏まえて、書面報告の前に家族・メンバーに意見を聞き、結果も家族・メンバーに報告することが望ましい。 | ご家族やメンバーからのご意見を取り入れながら、より良い施設に向け運営推進会議の書面報告や連絡など密に行う。 | コロナ禍により運営推進会議が一時休止してしまい、再開後もご家族様にお送りすることができずにいましたが、今後、メンバーへはこれまで同様実施し、ご家族様へのご意見・ご報告は早急に書面にて実施する。 | 1ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。